

# 図上訓練（指揮シミュレーションシ訓練）のまとめ

平成23年6月  
川越市消防団

## 1、訓練実施の背景

女性団員は、恒常業務として防火啓蒙ならびに普通救命講習指導を中心に行っているため、祭礼警戒時等の現場本部において消防団専用無線により現場の状況を把握し適切な指示を出すことが難しい。

このため、地図を用いて災害状況を設定（想定）し、その時とるべき対策とそれに伴う要員や要員配置の動きを模擬する図上訓練を実施。併せて情報収集訓練（消防団専用無線の取扱）を実施しスキルアップを図る。

## 2、実施内容

### 祭礼警戒活動 図上訓練

#### (1) 目的

警戒本部と警戒箇所で活動する団員の指揮命令系統の理解と無線を使用し円滑に指示命令を伝達するとともに情報収集を行うことができる能力を養うために訓練を行う。

#### (2) 訓練の進め方

①訓練開始後、警戒本部の指揮者（団長）から時間経過とともに「状況付与」（警戒箇所への活動指示）を行う。警戒本部無線要員は、状況付与内容を簡潔にまとめ、その内容を警戒箇所の責任者に無線により活動指示を与える。警戒箇所の指揮者は、警戒本部からの指示により警戒活動ならびに災害対応を行う。

②警戒本部側と現場側には、同一の現場周辺の地図を机上に設置し、警戒箇所は、活動状況を記入するとともに警戒本部側に状況報告を行う。警戒本部側は、状況報告を基に現場状況を把握し警戒本部の指揮者（団長）に報告する。

③訓練終了後に警戒本部と警戒箇所の情報整理内容の確認を行い訓練の振り返りを行う。

#### (3) 訓練想定

川越百万灯夏まつりの開催に伴い、「札の辻交差点」「松江町交差点」「本川越駅前」の3箇所で行い、このうち「松江町交差点」に女性消防団員を配置することとなった。

なお、祭礼警戒本部は、仲町交差点に設置される。

#### ①要員配置

- ・警戒本部に3名の要員を配置する。 指揮者は班長
- ・警戒箇所に6名の要員と団本部車両を配置する。 指揮者は班長

#### ②条件

- ・警戒本部（3F会議室）と警戒箇所（3F講堂）の情報連絡は、無線を使用する。
- ・毎正時（架空）に警戒箇所は、警戒活動状況を警戒本部に報告する。
- ・活動内容は、警戒本部側、警戒箇所側共に情報整理用紙に記録する。



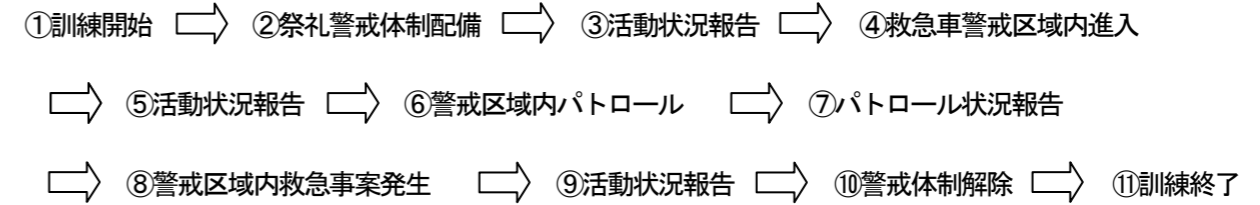
警戒箇所側



警戒本部側

## 3、訓練フローおよび状況付与内容

### (1) 訓練フロー



### (2) 状況付与内容

#### 図上訓練 状況付与項目一覧表

No.	状況付与受令者		付与事項	付与概要	No.	状況付与受令者		付与事項	付与概要
	警戒本部	無線担当				警戒箇所	班長		
1	警戒本部	無線担当	警戒配備	警戒体制配備指示	2	警戒箇所	班長	警戒配備	配置場所、要員報告
					3	警戒箇所	団員	定時報告	活動状況報告
4	警戒本部	無線担当	救急進入	救急車の警戒区域内進入					
					5	警戒箇所	団員	定時報告	活動状況報告
					6	警戒箇所	班長	パトロール	警戒エリア内パトロール開始
					7	警戒箇所	団員	状況報告	パトロール状況報告
					8	警戒箇所	班長	状況報告	警戒エリア内パトロール終了
9	警戒本部	無線担当	救急事案	警戒エリア内で救急事案発生					
					10	警戒箇所	班長	定時報告	活動状況報告
11	警戒本部	無線担当	警戒解除	警戒体制解除					

## 4、振り返りとまとめ

### (1) 情報収集伝達について

#### ①本部側

- ・事案発生（状況付与）後の警戒箇所またはパトロール中の要員の状況を把握しきれず、迅速な判断による明確な指示を出すことができなかった。
- ・無線通信においても焦ってしまい、内容を簡潔明瞭に伝えられなかった。

#### ②現場側

- ・救急車の警戒区域内進入を本部側より情報収集しても次の行動がすぐにイメージできなかった。
- ・あらかじめ担当は決めたが、状況の把握と無線通信の両立は難しかった。

### (2) 活動体制

#### ①本部側

- ・警戒本部側には3名配置。地図により状況の把握に努め、情報整理用紙を活用したが、指揮者としての的確な指示が出せなかった。

#### ②現場側

- ・現場側には6名配置。現場指揮者とパトロール要員との連携が執れていなかった。

### (3) まとめ

祭礼警戒は毎年行っているが、定時報告を受ける程度であったため、無線通信は思うように円滑にはいかず未熟さを実感した。無線通信は、内容をよく聞き、復唱しながら頭の中で指示、伝達する内容を箇条書きにして簡潔にまとめなくてはならない。そのためには、訓練が必要であることから消防団活動の際には、積極的に無線を聞くことが大切である。迅速な指示、伝達ができるように反復訓練を行う。有事の際には、組織の一員としてその役割を担えるよう今後も想定を変えての図上訓練を実施する。